



グリーンセンターだより



宮城県女川町復興支援

災害廃棄物の受入れが始まります

東京都市長会、女川町、東京都、宮城県の4者が、宮城県女川町の災害廃棄物を多摩地域の清掃施設で焼却処理する「災害廃棄物の処理に関する基本合意」を締結したことを受けて、当グリーンセンターでは、平成24年6月中旬以降に受け入れを開始することになりました。

被災地・宮城県女川町での処理は能力的・時間的に限界があるため、現地からの依頼を受けたものです。被災地復興の妨げとなっている災害廃棄物の処理支援について、皆様のご理解とご協力をお願いします。受け入れの概要は次のとおりです。

受入対象物は？

現地で選別され、公益財団法人東京都環境公社が各選別工程の放射線量測定で安全性を確認した、宮城県女川町の災害廃棄物(木くず等の可燃性廃棄物)です。

受入期間は？

平成24年6月中旬以降、平成25年3月末まで。

受入量は？

1,400 トン以内です。市内のごみ処理に支障を来さない量を設定しました。

受入方法・処理方法は？

災害廃棄物は、密封された専用コンテナにより当グリーンセンターに搬入されます。可燃ごみ処理施設のプラットホーム内で開封されて、ごみピットに投入された後、市内から収集した可燃ごみと混合して焼却します。なお、市内から収集した可燃ごみに対する災害廃棄物の混合比率は10%以下です。

焼却灰の搬出先は？

通常の可燃ごみと同様に、多摩地域25市1町が構成する東京たま広域資源循環組合の「エコセメント化施設」へ搬出します。施設が所在する日の出町の皆様にもご理解をいただきました。

空間放射線量や焼却灰の放射能濃度の測定は？

既に開始しているこれらの測定を継続し、災害廃棄物受入後の比較も分かるように市のホームページで随時市民の皆様にお知らせします。なお、グリーンセンター地元住民の皆様には、この『グリーンセンターだより』を増刊して回覧板によりお知らせします。(裏面参照)

今号では、災害廃棄物受入れ前のデータのご報告となります

クリーンセンターと周辺の空間放射線量測定結果（直近 2 回分）

国の方針では、毎時 0.23 マイクロシーベルト以上の地域が除染対象となります。今回の測定では、毎時 0.23 マイクロシーベルトを超えた地点はなく、健康に影響を与える数値ではありません。

追加被ばく線量（自然被ばく線量と医療被ばく線量を除いた被ばく量）が、年間 1 ミリシーベルト（毎時 0.19 マイクロシーベルト）に、自然界からの放射線量（毎時 0.04 マイクロシーベルト）を加えた、毎時 0.23 マイクロシーベルト以上の地域を、国は除染に向けた重点調査地域の対象としています。

1. クリーンセンター

測定地点 測定日	【北側】 動物管理事務所前	【東側】 根川沿い裏門脇	【南側】 資源物再生施設裏	【西側】 浅川沿い正門脇
H24/5/30	0.079	0.079	0.066	0.068
H24/6/6	0.079	0.084	0.066	0.069

2. 周辺

測定地点 測定日	新井わかたけ公園（石田 270 番 1）		新井公園（石田一丁目 13 番地の 6）	
	地面から 5 c m	地面から 1m	地面から 5 c m	地面から 1m
H24/5/30	0.055	0.055	0.087	0.073
H24/6/6	0.060	0.054	0.089	0.080

【測定の概要】①測定は 5 回行い、平均値を記載②測定機器…HORIBA 製環境放射線モニタ PA-1000 Radi③測定者…当クリーンセンター職員④測定単位はいずれも、マイクロシーベルト／時間

クリーンセンターから出る焼却灰の放射能濃度測定結果（直近 2 回分）

下表の結果については、国が定めた「福島県内の災害廃棄物の処理方針」において、作業員の安全を確保できるレベルとして 8,000 ベクレル/kg が示されていますので、健康に影響を与える数値ではないものと分析されています。

	採取日	放射性セシウム（ベクレル/kg）		
		C s -134	C s -137	セシウム合計
主灰 ※燃やしたごみの燃えがらのことで、焼却炉の底から排出される灰。	4/11	46	77	123
	5/11	55	85	140
飛灰 ※ろ過式集じん器などで捕集した排ガスに含まれているダスト（ばいじん）。	4/10	57	89	146
	5/10	64	113	177
排ガス ※ 4 月～ 6 月に稼働しているのは 2 号炉	4/11	不検出	不検出	不検出
	5/11	不検出	不検出	不検出

※不検出とは、分析の限界数値を下回っていることを指し、0 というものではありません。